原動機部

矢崎製作所様より　競技用電気自動車

アルミホイール貰い受ける

「鈴鹿大会での活躍を期待」

2025年(令和7年) 12月7日 日曜日　南信州新聞

鈴鹿大会での13連覇期待

矢崎製作所　OIDE長姫高原動機部に部品

飯田市羽場権現の金属加工業矢崎製作所(矢崎孝弘社長)が5日、飯田OIDE長姫高校原動機部に競技用電気自動車のアルミホイールを贈った。同部は寄贈のホイールを装着したマシンで電気自動車の大会「Ene―1 SUZUKA チャレンジ」(21日・三重県鈴鹿市)に出場する予定で、高校生部門の13連覇に挑む。

2023年から同部の生徒延べ8人が同社へ4回ほどインターンシップに訪れ、実際に加工や検査を体験する。

体験の中でアルミホイールの設計をし、同社が仕上げを担当。このほど完成した。

同部のスポンサーを務める同社は8年前にもアルミホイールを贈るなど、これまでも活動を後押ししている。

新ホイールは、従来よりもスポークの本数を増やし、さらに厚みを増すことで耐久性を向上させた。

先輩部員の電気自動車への情熱を引き継いだ部品を携え、今年最後のレースに臨む。贈呈式が同校で開かれ、矢崎社長が部長の熊谷漣太さん(17)と、部員の小川隼橙さん(同)に「素晴らしい活躍をしながら、実績を重ねている。この伝統を守っていってほしい」とアルミホイールを手渡し激励した。

熊谷部長は「先輩方が手掛けた部品で思いが詰まっている。これで勝ちたい」と意気込み。最初のインターンシップには熊谷部長の兄颯太さんも設計などに参加しており「良い報告ができれば」と話していた。

完成したアルミホイールの贈呈式

Ene―1 SUZUKAチャレンジ
高校生部門13連覇に挑む